

My Experience As An Asian American Living in Japan

足利市立教育研究所 Christopher Hai - Ou Chao

translated by Hisae Negishi

「アジア系アメリカ人としての日本での経験」

クリストファー・ハイオウ・チャオ

日本に2年以上住み、日常の習慣、生活様式、人々、すなわち文化の一部になれて、私はとても幸せに思います。私は日本の生徒に母国語である英語を教えると同時に私の人柄や、アメリカ人としてどんな価値観や信仰を持っているかを教えられるという素晴らしい機会を与えられました。日本の生徒と私がお互いに文化的バックグラウンドや生活について教えあうということはとても大切なことだと思います。

たくさんの笑顔に会い、素晴らしい場所を訪れ、生涯忘れ得ないような経験をさせていただいているこの日本を私は大好きです。

外国に住んでいる人は誰もささいなことや変な問題に出会います。

日本に住んでいる「ガイジン」の場合、AETの友人と私には共通な経験があります。たとえば、電車に乗ったときの困惑、宴会の時自分でビールを注いで飲む、温泉で他人と一緒に入るのをためらう、同じようなよくある質問を何度も何度もされる、などなど…。私たちは日本という新しく素晴らしい国の中で「ガイジン」という共通項で括られた仲間であり、共通の経験を楽しんだものでした。この点では私たちは同じアメリカ人でした。

しかし日本へ来てすぐ、私と他のAETを分けるものがあることに気づきました。

これは私がアジア系アメリカ人であり、他のAETはそうではないという事実でした。

日本に来る前、自分がアジア系アメリカ人であることがここでの生活にどんな影響を与えるかなど、考えもしませんでした。アメリカでは中学校から大学まで世界中のあらゆる所の文化的バックグラウンドが混合されている学校へ行っていましたし、私にはいろいろな人種の友達がありました。私たちはみな興味や夢を共有していました。みんなアメリカ人でした。日本に来てからこの考えはすっかり変わってしまいました。

今では生徒たちはアジア系アメリカ人やアフリカ系アメリカ人・イタリア系アメリカ人であることの意味を理解してくれたと信じています。そしてまた、なぜ日本人が私のアイデンティティについてそんなに戸惑ったのか、いまならわかります。

ほとんど外国人がいないこの日本では「人種」という概念はとらえにくいものなのかも知れませんが。私は次のようなことを生徒に考えさせました。「もし、コーカサス人（白人）の男女が日本で子どもを持ち、この子が日本的な文化的背景（言葉・学校教育・友人・文化等）の中だけで成長したら、この白人の子は日本人なのだろうか。」と。大部分の生徒は困ってどう答えたらよいか、わからないようでした。「その子は日本人ではないし、生涯日本人にはなりえない。」と答えた生徒もいま

した。

これは私の考えとはまったく違い、この白人の子は日本人だというのが私の考えです

最近生徒たちはもう私の文化的バックグラウンドについてあれこれ思わなくなり、単に私を外国の文化と言葉を教えてくれるアメリカ人の友人と知っているようです。故郷の友人たちがそうであるようにどこから来たかということは問題ではなく、どんな人間であるかということで私たちはお互いに尊敬しています。日本の子どもたちは無邪気で差別をせず、よそから来た人を両手を広げて歓迎し、よく聞き、学び、友達になるように思われます。これは私が感心する点です。

生徒だけでなく、先生方からもたくさんのことを学びました。私は自分が単にアメリカ人であるだけでなく、アジア系アメリカ人であるということ、そしてこれが私のアイデンティティなのだという事を認識しました。更にこれはアメリカにいるときも他の国にいるときも私を目立たせる原点なのだということがわかりました。

誰もみな自分のアイデンティティに誇りをもたなければなりません。私はこのことに気付かせてくれた日本に感謝しております。今では生徒たちがこういう冗談を言います。

「先生の顔は日本人ではないですね。アジア系アメリカ人の顔ですね。」

それはとてもすてきなことだと思いませんか。